

— 支部長就任挨拶 —

中部支部長 橋村 一彦

今年度より支部長を務めることになりました。微力ではありますが、会員各位の皆様のご協力・ご指導を得まして支部幹事の方々と共に、支部活動を進めてまいりたいと思います。宜しくお願い致します。



さて、ご存じのように建築界は何かと厳しい状況に有りますが、皆様におかれましては、その時その時での、最善の対処をなされている事と存じます。JSCA が置かれている状況も、年初の機関紙、各支部会報で本会会長、各支部長が言及されています様に、会員増加の停滞、将来の財政面の厳しさが有ります。こんな中、建築構造を職能とする個人的集まりのJSCAの支部活動をどのようにして行くか、考えなければならないと思います。

ここで今後の支部活動方針に触れさせていただきます。支部活動を進めるに当たり次の2点を常に念頭に置きたいと思います。1) 1つは、会員各位の会員としての意識・何らかの参画意識が持てるようにしたいという点です。2) 2つ目は、対外的に、役に立つ事の実践を通して、JSCA をアピールする事です。

これまでも支部活動は会の定款に極めて則った形で推進されてきております。今後の活動も今までの継続になりますが、次の4項目を挙げたいと思います。

①支部活動の充実、②建築構造と社会の関わりを深める③会員各位の技術向上への一助、④建築他団体との交流の継続、です。各項について、もう少し具体的に述べます。

①支部活動の充実について

このところ、支部総会、新年互礼会他の支部行事へ参加される方々の顔ぶれが一定化する傾向が見られます。しかし、講演会、JSCA 塾等での興味ある内容には、多くの方々の参加が有ります。参加してみたいと思う企画が、求められています。

中部支部は広範であり、特に北陸、静岡地区の方々との情報交換・交流を広げ、中部支部というものを出していく事も大事です。北陸、静岡とも活発に活動されており昨年後半、北陸の楽しく行われている活動に会わせて頂きました。並んで、構造に関連する賛助会

員の方との情報交換に、より実務面での有効性が有ると思います。

この項でもう一つ大切なのは、今皆さんが見ておられる「JSCA 中部」の継続発行です。広報委員会で常にアンテナを張り、充実した紙面にすべく活動して頂いております。

②建築構造と社会の関わりについて

特に近年は、東海地震のことも有り、行政との関わりも比較的多く有ります。本年は、名古屋市の相談窓口への対応も今まで以上に多くなり、多数の会員の方に参画頂いております。本年も、愛知県関係の方々との、限界耐力法の勉強も計画されております。

一般の方々が「構造」のことはよくわかりと言われるのを耳にしますが、耐震問題など分かり易く平易に説明する事が望まれます。又、行政・申請機関等との間で、申請上での問題点等の協議が出来ればとも思っています。

③技術の向上について

この点については、会員各位におかれまして、常日頃、業務で研鑽されている事項かと思えます。各委員会活動、講演会、見学会、講習会などを通して、情報・知識の吸収の一助になればと思います。又、学術面で研究機関との交流も、構造分野では進め易い部分であり、指導を仰ぐ事も含め「学」との交流を大切にしたいと考えます。

④建築他団体との交流継続について

これは、建築八団体との集まり、あるいは、この中の団体の行事への参加・交流が有ります。会員各位の中には、他団体にも加入されている方も沢山みえます。

以上、活動方針の一旦を述べましたが、これらの事は、会員の皆さんが既に考えられ実施されている事も多いと思います。ここで、再確認したという事になるかもしれません。

私事ですが、今年に入って、既に読まれた方も多いと想像します“坂の上の雲”の1～8巻を一気に読みましたが、方針立案、状況判断などの大切さを感じました。当然もっと穏やかな中ではありますが、支部活動でも、色々な局面が予想されます。

会員各位のご協力をお願いし、幹事の方々と協議を行い支部活動を進めたいと考えております。

よろしくお願い致します

以上

1. はじめに

本建物は、愛知県北設楽郡設楽町にある中学校である。この中学校は、設楽町にあった3校を統合するという計画により誕生した新設校である。

基本設計・監修は豊橋技術科学大学教授渡邊昭彦氏によるものであり、子供達の勉強や遊びの場として親しみやすく、安らぎのある空間を創造する建物となるように、自然の材料である木材をできる限り使用する計画となっている。

2. 建物概要

建築場所	愛知県北設楽郡設楽町大字田口 字大西8-1外121筆
用 途	中学校
建築面積	5,008.93㎡(校舎+屋内運動場)
延床面積	5,735.40㎡(校舎+屋内運動場)
建物高さ	校 舎:10.168m 屋内運動場:15.050m
構 造	鉄筋コンクリート造一部木造
基本設計	豊橋技術科学大学教授 渡邊昭彦
設計監理	株式会社 伊藤建築設計事務所
施 工	西松・吉川・太平特定建設工事共同企業体
集 成 材	三井木材

3. 構造設計概要

3-1全体計画

建物は平屋の南校舎棟、2階建ての北校舎棟および2階建ての屋内運動場の3棟で構成されている。各棟間は、エキスパンションジョイントを設け独立した建物として計画をする。

校舎棟は、8m×8mグリッドを基本とする計画となっている。屋内運動場は、6.8mの5スパン×29mの平面を確保する計画となっている。

3-2上部構造

建物全体としての架構形式は、各棟とも鉄筋コンクリート造の柱+大断面集成材を用いた梁にて計画する。

校舎棟の張間方向の梁は、長期のたわみ低減のために張弦梁として計画する。また、1時間耐火を満足するために45mmの燃え代設計を行うが、張弦材は火災により強度が低下するため燃え代設計時は、大断面集成材のみで許容応力度を満足するように計画する。

校舎棟の桁行き方向の梁は、基本的には梁成1m～1.5mのトラス梁にて計画する。しかしながら、建物全体のプロポーションにより階高を抑え、かつ開口面積を確保しなければならない校舎北面の梁は、



北 棟

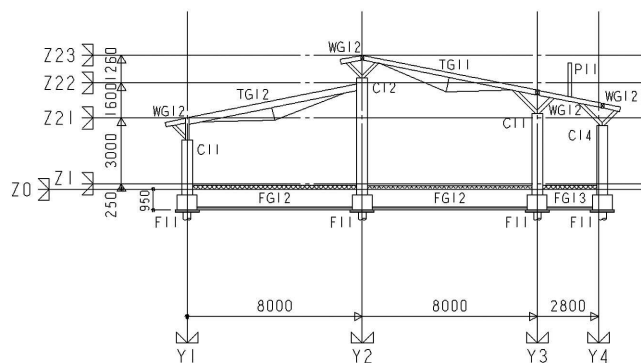
南 棟

屋内運動場

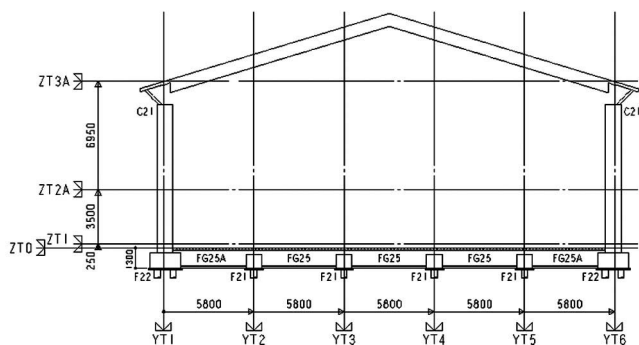
方杖により有効長さを短くした単材の梁として計画する。

梁成が必要なランチルーム、図書室等の比較的大きな空間の梁も威圧感がなく軽やかな計画とするためトラス梁にて計画する。

校舎棟、屋内運動場ともに各棟スパン方向の軸組図に示す架構となるため地震時は、片持ち柱として設計する。



校舎棟軸組図



屋内運動場軸組図

屋内運動場の小屋組は、意匠的に大断面集成材をできる限り天井から露出させ、構造体としての美しさを表現するため、写真にあるように集成材の梁を平面的に三角形となるように構成し、面内剛性を確保するように計画する。

また、長期のたわみ低減のための張弦梁や、1時間耐火を満足するための燃え代設計の考え方は校舎棟と同じ計画とする。



屋内運動場内部写真

3-3 下部構造

本建物の支持地盤として期待できる風化岩の層は、ボーリング調査における資料よりGL-0.76m~GL-8.6m以深まで変化している。

本建物の基礎を設計するにあたり、建物の不等沈下を抑えるために支持地盤を同じ層とするため、また経済性を考慮した計画とするため直接基礎、ソイルセメントコラムによる地盤改良基礎および杭基礎による異種基礎を採用する。

基礎の内訳は、基礎底が支持地盤のものを直接基礎、基礎底から改良長さが3.5mまでのものを地盤改良基礎、杭長が5m~8mのものを杭基礎とする。

地震時に対する検討用水平力は、建物全体の水平力を柱の軸力比により分配した場合とゾーニングによる水平力との大きい方を採用する。

4. おわりに

豊橋技術科学大学教授渡邊昭彦氏の基本設計・監修のもと平成13年2月に竣工した本建物は、新中学校として開校後2年あまりが過ぎた。

これからも本建物が、次世代を担う若者に愛され、活用され、また憩いの場として夢を与える建物であるように願ものである。

中部支部2003年度通常総会報告

2003年度中部支部通常総会が5月26日(月)メルパルクにて開催され、出席会員42名・委任状178名の計220名により本総会は成立しました。審議に先立ち議長に ANDO 構造設計の安藤氏を選出し、下記議案を審議いたしました。

- 議案1 2002年度支部事業報告の件
- 議案2 2002年度支部収支決算の件
- 議案3 2003年度支部役員選任の件
- 議案4 2003年度支部事業報告の件
- 議案5 2003年度支部予算の件

まず議案1については、飯嶋前支部長より委員会、部会、講習会などの活動内容の報告があり、議案2については、事務局の野田氏より会計報告がありました。さらに議案3では、橋村新支部長より今年度の支部役員の紹介がありました。議案4では、続いて新支部長より今年度の支部事業を進めるにあたっての基本方針が発表されました。最後に、議案5として、2003年度支部予算について説明がありました。各議案とも慎重審議の結果、満場一致で承認されました。尚、新支部長より主旨説明がありました本年度支部事業計画に関して、総会に出席されなかった会員諸氏にその骨子をご報告いたします。

1. 組織の充実

- (1)若い人の増員と活動への参加。
- (2)各地域会員との交流と情報交換。
- (3)賛助会員との「J S C A中部技術交流会」活動の発展。
- (4)支部会報「J S C A中部」の発行と密度の高い活動情報。

2. 建築構造と社会とのかかわり

- (1)建築構造士地位の確立と社会が認める活動。
- (2)地震災害等協力とその対応。
- (3)行政への協力と交流を計る。



春山幸男講師

3. 建築構造技術の向上

- (1)各委員会、部会の活動。
- (2)講習会、演説会、見学会の実施。
- (3)基、規準と性能設計をふまえた J S C A 色の明確化。

4. 建築諸団体との交流

- (1)講習会、講演会等開催行事の協力。
- (2)地震災害等協力体制。

総会終了後の第2部では(財)宇宙開発事業団より春山幸男氏を講師としてお招きし、「時代は宇宙へ」と題し、記念講演を開催しました。春山氏は学生時代、理学部数学科に在籍されていたため、将来は数学の先生になるかと思っていたそうです。ところがその頃、アポロ計画で人類が初めて月に第一歩を印し、日本でも宇宙開発事業団が組織され、応募を開始したこともあり、この道に進むことに決心したそうです。また、我々の生活と密接にかかわっている話として、毎日の天気予報を放送するためにその元となるデータを送信してくる人工衛星「ひまわり」についての話もありました。「ひまわり」は地上36,000kmの静止軌道上に位置し、地球と同じ回転速度で地球を回転しているため、相対的に静止した状態にあり、地球を観測しているそうです。また、講演の中でいくつかのビデオ紹介がありました。その中でもスペースシャトルに乗務して各種の実験をやられた毛利衛さんのビデオが印象的でした。

記念講演の後、引き続き催された懇親会には来賓、会員、賛助会員等多数参加していただきました。支部長の挨拶、ご来賓のご祝辞の後、記念講演を賜った春山氏のご発声で乾杯を行い歓談に入った後、和やかな内に終了しました。最後に本総会の開催にあたり多大なご尽力をいただいた事業委員各位にこの紙面を借りて御礼申し上げます。(文責：広報委員会)



総会風景

中部支部平成15年度組織構成

支部役員会

本会理事 橋村 一彦 (竹中工務店)
 支部長 橋村 一彦 (竹中工務店)
 副支部長 大野 富男 (日建設計)
 谷川 修二 (大林組)
 総括幹事 藤田 良能 (三菱商事)
 支部幹事 高藤 勝己 (大建設計)
 伊東 正 (竹中工務店)
 鈴木 勉 (石本建築事務所)
 山崎 俊一 (清水建設)
 石井 和彦 (日総建)
 寺前 博 (鹿島)
 大島 基夫 (大成建設)
 田淵 潔 (田淵建築構造事務所)
 澤木 俊治 (澤木設計事務所)
 支部監査 小西 立行 (青島設計)
 野田 泰正 (野田建築事務所)
 顧問 北内 博雄 (北内構造設計事務所)
 大塚 一三 (河合松永建築事務所)
 事務局 小川 浩信 (伊藤建築設計事務所)

技術委員会

委員長 高藤 勝己 (大建設計)
 副委員長 内本 英雄 (清水建設)
 委員 小阪 淳也 (日建設計)
 事務局 小川 浩信 (伊藤建築設計事務所)

計画部会

主査 鈴木 尚之 (青島設計)

鉄鋼系部会

主査 山崎 暢 (清水建設)

コンクリート系部会

主査 徳永 政之 (オリエンタル建設)

地盤系部会

主査 高木 晃二 (大林組)

木質系部会

主査 川角 久子 (川角設計室)

行政耐震委員会

委員長 石井 和彦 (日総建)
 副委員長 後藤 匡 (竹中工務店)
 同上 三輪 隆治 (清水建設)
 顧問委員 寺前 博 (鹿島)
 委員 野田 泰正 (野田建築事務所)
 川端 憲敏 (東畑建築事務所)
 中田 明良 (空間構造設計室)
 森 隆寿 (飯島建築事務所)
 柴田 緑 (日本設計)
 近藤 雅子 (鴻池組)
 孕石 好治 (キープ構造計画事務所)

事業委員会

委員長 伊東 正 (竹中工務店)
 副委員長 鈴木 勉 (石本建築事務所)
 委員 斎藤 正 (三菱地所設計)
 山本 享明 (名古屋女子大学)
 大野 勝由 (野口建築事務所)
 川端 憲敏 (建物蔵部)
 森 隆寿 (飯島建築事務所)
 山崎 暢 (清水建設)
 末吉 直樹 (大林組)
 土田 哲嗣 (日本E. R. I)

WG21

主査 影山 裕記 (影山建築設計事務所)
 事務局 川端 憲敏 (建物蔵部)

広報委員会

委員長 山崎 俊一 (清水建設)
 副委員長 浅川 公人 (伊藤工務店)
 委員 佐々木貴司 (鹿島)
 土田 崇仁 (伊藤建築設計事務所)
 小阪 淳也 (日建設計)

ホームページWG

主査 内本 英雄 (清水建設)
 事務局 八谷 達樹 (飯島建築事務所)

北陸部会

部長 田淵 潔 (田淵建築構造事務所)

静岡部会

部長 澤木 俊治 (澤木設計事務所)

岐阜部会

部長 多田 昌司 (那由多デザインオフィス)

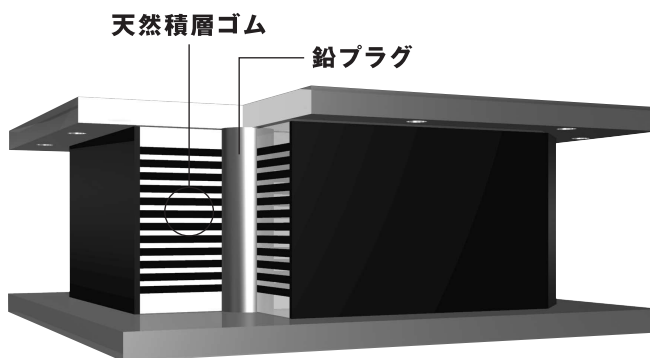
三重部会

部長 門脇 哲也 (仁設計室)

LRB-S

角型 鉛プラグ入り
天然積層ゴム型免震装置

- 従来のLRBの性能を維持するとともに、駆体と免震装置の経済的な設計ができるエコノミーデザインです。
- 水平全方向で安定した特性を示し、大変形に対する信頼性も確認されています。
- 角型のため耐火被覆などが容易で、低コスト化できます。
- 同仕様の円形型に対し、ワンランク下のサイズで対応できるため、設置面積を小さくできるコンパクト設計です。



OILES オイルス工業株式会社 免制震カンパニー Tel.03-3578-7933
〒105-8584 東京都港区芝大門1-3-2 <http://www.oiles.co.jp/>

技術委員会今年度の活動方針

技術委員長 高藤 勝己

このたび、技術委員長という大役を仰せつかりました高藤でございます。会員の皆様のご協力を戴きながら2年間務めていきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

建築基準法が改正され、建築物の性能設計が叫ばれる中、構造技術者に対しても、建築物の構造的性能の説明能力、特に建築主へのそれが強く求められる時代になってきております。社会の構造技術者に対する期待も大きく、構造技術者にとっては厳しく、大変な時代になってきておりますが、裏を返せば、JSCA 設立当初の目標のひとつである「構造技術者の地位向上」の良い機会であるとも考えられます。

そのような時代背景を踏まえ、JSCA 中部支部技術委員会としては、従来と同様「構造技術者としての技術の研鑽」をメインテーマとし、

1. 講習会・見学会の実施
2. 学会会員との交流
3. 建築行政関係者との交流
4. JSCA 活動の PR

を活動の基本方針として、計画、鉄鋼系、コンクリート系、地盤系、木質系の各部会活動との連携を計りな

がら、JSCA 会員の皆さんのみならず構造技術者の方全般に、構造技術の研鑽、習得の場を提供していきたいと思っております。また、JSCA 会員の皆さんにとって、受け身での活動参加のみでは JSCA の魅力も感じられないと思っておりますので、今、時代が建築技術者に対して求めている「説明能力」の向上のためにも、JSCA 会員の設計事例紹介の場などを利用しながら、皆さんの能動的な JSCA 活動への参加を促す方法も考えていきたいと思っております。特に各部会活動においては、会員の皆さんが活動に参加する絶好の場でもありますので、各部会主査の方々の協力を得て、皆さんが参加しやすい身近なテーマを掲げて、活動を充実させていきたいと考えています。

今まで JSCA の活動にはあまり積極的でなかった者が、就任早々から大きな目標を掲げてしまい、無事務めることができるか不安ではありますが、これも自分自身の研鑽の機会であると認識し、JSCA 会員皆さんの協力を戴きながら、あまり気張らずにやっていきたいと思っております。今後ともご指導をお願いするとともに委員会活動に対する提案などを戴ければ幸いに思います。

行政耐震委員会今年度の活動方針

行政耐震委員長 石井 和彦

が移動しつつあります。

行政耐震委員会の石井です。この度、前委員長の寺前さんのあとを引き継ぐことになりました。昨年度までは副委員長を務めさせていただいていた委員会でもあり、今までの流れを継承していくつもりです。当委員会の活動はその名のとおり、行政対応と耐震対応の2本の大きな柱がありました。行政対応は主に愛知県や名古屋市の高層指針を始めとする規準類の見直しの手伝い、あるいは JSCA 会員の方々からあげられた確認申請に関する意見の行政担当者との技術的議論といった活動です。また、耐震対応は愛知県建築住宅センターの耐震診断の審査補助が主な活動でした。しかし、昨年度あたりから当委員会を取り巻く環境が大きく変化しました。ひとつは確認申請業務に民間審査機関が参入し、行政側の審査件数が減少傾向にあること、すなわち確認申請時に設計者と行政担当者の意見の不一致の頻度が著しく減少したことです。ふたつ目は名古屋市全域が東海地震の強化地域に指定され行政サイドも官民含めた既存建物の耐震対策に軸足を移動せざるを得なくなったことです。このような外的変化から、当委員会も活動内容を徐々に変化させていくことになりました。今では当委員会の活動は行政の方々との協力しながら耐震対策を進めていくことに力点

その主な活動内容をご紹介しますと、①愛知県・名古屋市の建築指導部・課との意見交換、②一般市民を対象とした耐震改修相談窓口への相談員派遣、③愛知県建築物地震対策推進協議会および同耐震診断推進部会・耐震改修促進部会への参加、④名古屋市被災建築物応急危険度判定模擬訓練の参加、⑤名古屋市・民有建物の耐震改修にかかる意見交換会および同 WG への参加、などなどです。

なお、②については支部全体で対応しています。中部支部には多くの委員会がありますが、かなり多忙な委員会のひとつです。各委員の方々には本業の方がご多忙とは重々知りつつ、ご無理言いながら担当して頂いているのが現状です。「耐震〇〇」と名が付くと当委員会の担当となるので、ふと気が付いたらアメーバのように触手を伸ばし、あれもこれもいろいろな会や WG に参加している委員会となっていました。今後さらに増加する恐れは十分ありますが、皆さんご存知のとおり、中部支部は行政と極めて良好な信頼関係を構築しています。

これを良き財産として会員各位と行政側との橋渡し役を担っていこうと思っております。

事業委員会今年度の活動方針

事業委員長 伊東 正

事業委員会の活動は、新年互礼会・通常総会・隔年ごとに実施する海外研修会の企画・実施をはじめ、賛助会活動と若手グループ活動の支援を中心に活動しています。不定期に実施される各種講演会も事業委員会が担当することが多くなっています。

これらの活動を通じて、会員の皆様への情報の提供・会員相互の積極的な交流が生まれ、JSCA 中部の活動の活性化につながればよいと考えています。

今年度の活動は、昨年度から大きく変わることはないのですが、今考えていることを述べてみたいと思います。

1. 新年互礼会・通常総会における、記念講演の企画は事業委員会でも頭を悩ませる案件と言えるでしょう。昨年から「脱建築構造」をテーマに新年互礼会で飛行機[YS-11]の話。通常総会は船の話。今年の新年互礼会は、原田先生の「愛知万博」通常総会は宇宙開発事業団にお願いして「時代は宇宙へ」と、続けてきました。幸いに「非難の声」も無くホッとしています。さて来年の新年互礼会ですが、宇宙の第2弾か、別の企画かお楽しみに。

2. 海外研修会は、今年実施する予定の年になってはいますが、イラク戦争に続くイラク国内外混乱や、新型肺炎 SARS 感染症の蔓延など、安全性が懸念されることから、残念ですが順延することにしました。楽しみにしていた方も多いと思いますがご容赦ください。
3. 賛助会活動については、見学会・説明会など、積極的な働きかけが多くなったこと、技術委員会の部会との重なりにより、一部に混乱が生じていたこともあり徐々に技術委員会へ移行する方向で進行中です。また昨年来技術交流会を立ち上げ、より積極的な活動の基盤づくりを目指していきたいと思っています。
4. WG21は次代のJSCAを担う若手中心の活動グループで、偶数月の第2火曜日18:00から、飯嶋建築事務所をお借りして、勉強会や設計例紹介などを中心に活動を行っています。立ち上げ時におけるメンバーの殆どはすでにJSCAの中堅として活躍中で、初期の目標は達しています。若い人たちの参加を募りWG21のメンバーの更新を図りながら継続的な活動ができるよう支援することが重要な課題と考え、取り組んでいきたいと思っています。

会員の皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

広報委員会今年度の活動方針

広報委員長 山崎 俊一

昨年度に引き続き広報委員長を担当することになりました。広報委員会は、支部活動方針の1つである「各地域会員との密度の高い交流と情報交換」そして「社会に向って認識を深める広報活動」を主眼において日常活動を展開しております。委員会は、広報誌「JSCA 中部」を発行している広報委員会と、中部支部のホームページを運営しているホームページWGで構成されています。

支部広報誌「JSCA 中部」は年4回発行され、本部機関紙「structure」に同封され全国の会員に配布されます。歴史的には、1985年に発行された「構造懇中部」第1号から1989年に第1号「JSCA 中部」が発行され、今回の56号に至っています。会誌への掲載内容は、各委員会活動、設計例、講習会、各種イベントなど多岐にわたっており、極力皆様の興味を引く内容を掲載することを心がけております。さらに今年からは、皆様が見学したいと思うような建築現場に出向き、取材活動を実施することも視野に入れ、委員会のメンバーの充実を図っていきたく考えております。また、機関紙の円滑な運営のために賛助会員の方々には、各号につき2社の広告協賛の支援をいただいております。厳しい社会状況の中、快く広告掲載をお引き受けいただいた賛助会員各社には、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

JSCA 中部支部の活性化を目指し立ち上げました支部ホームページも4年目を迎えました。HPの運営は、WGのメンバーが中心となりおこなっておりますが、各委員会及び部会からの情報提供はそれぞれの担当が直接運営するシステムになっております。昨年度は、機関紙「JSCA 中部」の1号から最新号までをホームページ上で閲覧できるよう、内容の充実に取り組みました。今年度は、技術交流会の活動をホームページに掲載できるよう、運営メンバーを中心に、活動していきたいと考えております。メンバーも発足当時より少しずつ入れ替わりましたが、年齢的にも若手が中心となり活動しております。

普段の職場のメンバーとは違い、同じ建築、構造といったキーワードで結ばれた仲間との交流もJSCAの活動から得られる、1つの財産と信じております。皆様のご意見、ご希望を聞きながらさらに充実したホームページに発展させたいと考えております。

最後に皆様に親しまれる「JSCA 中部」そしてホームページを目指し、役に立つ広報委員会でありたいと考えます。皆様のご支援ご鞭撻を宜しくお願い致します。

講習会「環境にやさしい杭工法」参加報告

去る6月18日(水)名古屋センタービルにおいて、JSCA中部事業委員会賛助会地盤系部会主催による「環境にやさしい鋼管杭工法説明」と題する講習会が受講者38名の参加を得て開催されました。

今回の講習は「環境にやさしい」をテーマとし、「無排土」「低騒音・低振動」「省スペース」をキーワードに各種工法を鋼管杭メーカー5社の方々に講師として説明して頂きました。前半は2～4階建RC造・2～5階建S造に適した小径鋼管杭工法を3社から、途中休憩を挟んで後半は大規模建築物に適した大径鋼管杭工法を2社から説明して頂きました。小径鋼管杭工法としては旭化成建材(株)「イーゼット・EZII」、(株)クボタ「ダクパイル」、(株)トラーバース「SMD工法」の工法説明がありました。各工法共杭の先端に杭径2～3倍の螺旋形の羽根部があり頭部を重機で回転して地中の支持層まで貫入させる工法です。材種と継手は、ダクパイルは鋳鉄を一体成形で製作しておりボルト式継手方式を採用しています。イーゼット・SMD工法はSTK400・490の建築鋼材を使用し



講習会風景

ており継手は溶接またはネジ式を原則採用しています。大径鋼管杭工法としては新日本製鉄(株)「N Sエコパイル」とJ F Eスチール(株)「つばさ杭」の工法説明がありました。杭先端形は小径鋼管と大きな差異はありませんが、径が大きくなると全旋回機を使用することになります。材種はSKK400・490で継手は溶接になります。施工管理は小径大径共N値と相関関係があるトルク値をモニターで管理する方法を採用しています。耐力算定式等の詳細は各メーカーカタログを取り寄せて各自設計に反映して頂きたいと思います。(文責 広報委員会)

第30回JSCA中部支部ゴルフコンペ開催

恒例のJSCA中部支部ゴルフコンペ第30回記念大会が、6月7日(土)多度カントリークラブにて参加者21名で開催されました。今回は北陸支部からの参加も予定していましたが、残念ながら次回のコンペに先送りになりました。当日は天気にも恵まれ、ベストコンディションで望んだ人、そうでない人も和気藹々とラウンドを満喫しておりました。上位ベスト3の成績は以下の通りです。

- 優勝 川本 亮平 (フドウ建研)
- 準優勝 安藤 誠 (ANDO 構造設計)
- 3位 近藤 幸生 (中部ケイソー工業)



豊かで快適な生活空間づくりに
貢献しています。

営業のご案内

ポール・パイル・カーテンウォール・構造部材
地中化製品・PC床版などコンクリート二次製品の
設計製造、販売ならびに施工

地衣類・藻類除去剤
「コレトレール」
の製造、販売、施工

コンクリート構造物の
劣化診断
補修補強工事

 東海コンクリート工業株式会社

〒455-0844 名古屋市港区潮風町(10号地)
Tel.052-381-6211 (販売推進本部)



(PC構造柱、PC構造梁使用例)

ホームページ <http://www.tcon.co.jp>